



マイクロビット (micro:bit)  
プログラミングで操れる小さなコンピューター。25個のLED、2個のボタンスイッチのほか、無線通信機能などがついています。



## プログラミングを タヨレンジャー 長野工業高等専門学校生と

ゴミ問題解決をプログラミングで考えた！  
難しかったけど、楽しかったよ!!

木島小学校4年生児童が、ごみの学習を通して気づいたごみ問題。  
9月30日の授業で、その問題解決のための自分なりのアイデアを、マイクロビットを使ったプログラミングで表現しました。

授業では、長野工業高等専門学校電気電子工学科の宮崎敬(たかし)先生をはじめ、同研究室の学生が、頼れる先生「タヨレンジャー」となり、子ども達を支援してくれました。児童は平田久貴教諭の掛け声を合図に、用意された様々な道具や材料から、必要なものを選び、組立てを始めました。児童の「タヨレンジャー」の声と、寄り添う学生の姿。  
約2時間の授業を振り返り、中村柘斗さんは「難しかったけれど楽しかった」と笑顔。丸山美空さんが完成

させたのは、ごみを乾燥させ、臭いを消す為の装置。ごみを入れて蓋を閉じると、内部でプロペラが回り風を起します。作った理由を尋ねると「ごみを乾燥させることで、臭いが消えたらいいなと思ったから。」

現在はインターネットが普及し、日々AI(人工知能)など多くの分野で技術革新が進んでいます。そうした社会変化から、学校の教育課程基準「学習指導要領」が改訂され、子ども達は、これまで以上に情報収集と、プログラミングを活用する力が求められてきます。

市教育委員会では、将来、地域を担う子ども達が、課題解決のため効率よく情報収集し、手段を考え、プログラミングを通して表現できるように学びを進めていきたいと考えています。

## おじいちゃん、おばあちゃんとカレーパーティー



瑞穂保育園は、毎年おじいちゃん・おばあちゃんと一緒に畑で野菜を作っています。  
今年も祖父父母参観日に収穫したジャガイモでカレー作りをしました。1・2歳児はタマネギの皮むきとカレー粉の入っている箱を開け、3歳児は人参の皮むき、4・5歳児はジャガイモの皮むきと野菜を切りました。「ぼく、お家でやったことあるよ。」と話す子

どもたち。祖父父母の皆さんには、子どものペースに合わせて、見守ったり手を添えたりして一緒に作っていただきました。お昼には畑で採れたスイカと、出来上がったカレーをみんなで食べました。「一緒に作ったカレーもスイカも、とってもおいしい。」とおじいちゃんおばあちゃんと楽しい時間を過ごしました。

## 平成31年度 全国学力・学習状況調査結果 (4月18日実施)

小学校6年生と中学校3年生を対象に実施した本調査結果がまとまりました。  
◆小学校については、国語、算数共に全国平均を下回る結果となりました。  
◆中学校については、国語と英語が全国平均と同程度でしたが、数学は全国平均

を大きく上回りました。  
◆学力調査や学習状況調査の結果を詳細に分析し、一人一人の確かな学力向上を目指した授業改善を、各校と連携しながら取り組んでまいります。

平成31年度 飯山市と全国の平均正答率比較(%)

学校別	教科	全国	飯山市
小学校 6年生	国語	63.8	57
	算数	66.6	61
中学校 3年生	国語	72.8	72
	数学	59.8	65
	英語	56.0	56

※全国平均は小数第一位、市平均は整数値で公表

## 権 学習シリーズ

### 公民館における人権学習をもとめて 飯山市公民館長 小林 芳裕

今年の夏も猛暑でしたが、飯山高校の活躍に、暑さを忘れるほどの感動をもらった夏でもありました。心から感謝したいと思っています。  
さて、それより少し前のある晩、テレビでプロ野球中継を見ていたときの事です。バッテリーボックスの背景に様々な宣伝が映し出される中で、一つのコーナーの次のような一文が目にとまりました。それは、「あなたの街の相談パートナー、人権擁護委員」というものでした。周りが色鮮やかな宣伝で囲まれていただけに、色調をおさえた、この一文が覚えておきました。プロ野球と人権擁護委員との間に直接的な関係はないと思いますが、テレビ放映に合わせていたことからすると、人権擁護委員という存在を、子どもから大人まで、多くの人たちに広く知ってほしいという願いが込められているように思われました。さらに、身近なところに相談のつてくれる人がいるから、困ったことがあつたら、どんなことでも遠慮しないで相談してください、と

訴えかけてもいるようでした。このところの報道を見ると、幼い子どもが、何の抵抗もできずにいままに虐待を受け続けているというような、本当に痛ましい事件が相次いでいます。危害を加えた親には、もちろん言いわけの余地などありません。しかし、その親たちも社会の中で何らかの「生きづらさ」に悩んだ末の出来事だとしたら、大事に至る前に人権擁護委員やいずれかの機関などに相談できなかったものかと悔やまれてなりません。  
公民館活動は、戦後、民主主義や平和、人権の尊重といった憲法にかかわる内容を、自分たちの日々の生活に根ざした課題に置き換えて学び合うところから始まったそうです。そして今、人権について言うならば、例えば、生きづらさのもとを共に考え合ったり、困ったときに助け合ったりできるような人間関係づくりや地域づくりを大切にしていかなくてはならないと考えています。